特別企画

大学院生トークセッション

Talk Session

Graduate School Senzoku Gakuen College of Music

私たちが伝えたい、洗足学園音楽大学大学院の魅力。

洗足を選んだ理由や洗足の学びを通して成長した点など
本学の特色や魅力について、各専攻の学生たちが語ったリアルな声をお届けします。

なぜ洗足の大学院に進学したのですか？

[増田] 学部時代からお世話になっていた先生のレッスンを引き続き受けたかったことや受講したい講座があったことなどです。

[野邊地] 声楽コースの私にとっては大学院オペラがあることが大きかったです。作曲や楽器などの専攻の学生たちと一緒に、オペラを創り上げる大学院はなかなかないと思います。

[若林] 僕は他大学出身なのですが、大学時代にお世話になっていた先生の勧めで洗足に進学しました。洗足では同時に別の先生につくことができ、大学院でオーケストラを学べることが魅力でした。今までと違う環境で様々な演奏の機会を得られるところも決め手になりました。

[岩井] 私も他大学出身なのですが、洗足は自分の師事したい先生に習えるシステムに惹かれました。それと、オーケストラが学べることです。オーケストラやオペラも学べる大学院は、本当に魅力的でした。

[薩山] 理系の大学出身ですが、ずっと音楽の勉強を続けていて、劇伴音楽を始めとする幅広いジャンルを体系的に学ぶことができる大学院を探していました。その際、相談をした先生に勧められたのが洗足の大学院でした。

[中島] 藝大時代は、主に伝統音楽としての尺八を専門に勉強してきたのですが、外部の演奏会が増えるにつれ、現代邦楽の必要性を強く感じ、専門的に現代邦楽を学びたくて洗足の大学院に進みました。

大学と大学院の学びの違いは？

[永嶋] 大学は座学が多く基礎的なことを勉強することが多かったのですが、洗足では多くの先生のレッスンを受けることができたり、多くの演奏会にも出演できたりと、より実践的な授業が多かったです。大学で習ったことを応用する技術を学び、スキルアップができたと思います。

［倉内］大学では基礎的なことを学び、大学院では学部で学んだことを発展させてより深いテーマを選んで研究できる点ですね。そして、ステージに立つ機会などが多くなり、研究の密度はより濃くなったと思います。

［岩井］大学は結論を教えてくれる授業で、大学院はその結論を導き出すまでの方法について教えてくれる授業といった感じでしょうか。大学院の授業では、研究の仕方、分析のやり方などを丁寧に教わりました。

［増田］大学院に入ってからは、自分のやりたいことをはっきりさせた上で、直接アプローチしなければならない機会が増えたと思います。自主性をもって研究することが求められるのは、大学との大きな違いです。

［中島］自分の目指す音楽に向けて多くのカリキュラムの中から自分自身で選択し、深く学べる点です。先生方のレッスン、コンチェルト、他楽器とのアンサンブルなど、大学よりも多くの経験を得ることができます。

［野邊地］当然ですが、研究の専門性は増します。そして、幅広い分野の先生方に教えていただくことで、たくさんの方面からアプローチする視点が得られました。そこから本当にやりたい音楽について考えられたことは、大学院ならではだと思います。

［戸﨑］大学の頃と比べて、より専門的な授業が増えました。しかも、どの授業も自分の音楽につながるものでした。自分で授業を選択できることで、時間を有効に使うこともでき、積極的にアプローチしていくことで様々なことが次々と学べる環境だと思います。

洗足の大学院の良いところは？

［倉内］大学院は少人数なので、とにかく大学院生同士のつながりが強いところだと思います。オペラやオーケストラをはじめ他コースとの合同演奏会が数多くあり、それらの機会を通して団結力が増していくことを感じました。

［岩井］私も、大学院生同士のつながりが強いところだと思います。別のコースの学生とお互いの演奏会に足を運んで感想を言い合ったり、学校ですれ違ったら頑張ろうねと声をかけたりしている様子は素晴らしいと思います。先生方も結束を高める環境を作ってくださっています。

［永嶋］とにかく色々な先生のレッスンを受けることができ、論文も先生にしっかり見ていただけるので、音楽に対する考え方や姿勢が入学前と大きく変わりました。また、自分のペースで勉強できるので、私の場合は教員採用試験の勉強もこなすことができました。あと、レッスン室が借りられるのも魅力でした。

［若林］オーケストラはもちろん自身のソロから、室内楽、オラトリオやオペラと多種多様な演奏形態を経験できるのはとても素晴らしいと思います。また、コースが幅広く専門以外の先生のレッスンを受けられたり、他コースの学生たちとセッションをしたりして、今までとは違う考え方や価値観を得られました。

［蔭山］様々な側面から「音」を研究する充実したカリキュラムがあるので、音楽に対する知見をより深め、作曲における表現の幅を広げることができました。

永嶋 千晴 Chiharu Nagashima
● 器楽専攻（ピアノ）2年
国立音楽大学卒業

若林 俊介 Shunsuke Wakabayashi
● 器楽専攻（管楽器／トランペット）1年
武蔵野音楽大学卒業

岩井 志帆 Shiho Iwai
● 器楽専攻（管楽器／フルート）2年
国立音楽大学卒業

森下 由貴 Yuki Morishita
● 器楽専攻（弦楽器／ヴァイオリン）2年
東京音楽大学卒業

[中島] 本学または学外の著名な講師を招き、各分野の専門知識を磨くプロフェッショナル研究や他楽器とのアンサンブルを学ぶアンサンブル研究など、様々な視点、角度から音楽を研究できる点です。またカリキュラムを自分で選択できるので、専門外の分野でも、必要に応じて専門的なレッスンが受けられる点も良いですね。

大学院のお気に入りの場所はどこですか？

[増田] 前田ホールです。自分で作曲した曲が大きなホールで演奏されるというのは、やはり格別な思いがあります。貴重な経験を積めた場所です。

[倉内] 僕も前田ホールです。ソロやオペラで何度もステージに立ったので、たくさんの思い出が詰まっています。

[野邊地] レッスン室です。大学院生はレッスン室を借りられるので、自分の練習に集中できます。また、図書館も音楽に関する書籍だけでなく、CDやDVDがあるので視聴してリラックスできます。

[岩井] 図書館です。論文の時期は同期が並んで論文を書いていて、お互い励まし合いながら闘っていました。

[蔭山] 僕はキッズスクウェア前の広場です。天気の良い日は、そこで友達と昼食をとることが多かったです。開放感もあり、気軽に利用できるのでとても気持ちいい場所です。暖かい日は眠くなりますが（笑）。

[戸﨑] 学内にあるベーグル屋さんです。練習で疲れた時や本番前によく行きました。お店の人に色々な話を聞いてもらい、私にとってはちょっとしたオアシスでした。

[中島] 地下2階にあるMUSEというカフェテリアです。料理が美味しく日替わりでメニューの変わるシェフの気まぐれランチや本格的な釜で焼かれるピザやパニーニはやみつきになる美味しさです。しかも、音大なので設置してあるピアノを弾いたりする学生もいて、良い気分転換になります。

[森下] レッスン室です。広くて使いやすいので、大学で空き時間ができたときは8割方そこにいましたね。無料でレッスン室が使えることはホントに嬉しいです。

洗足出身生と他大学出身生、お互いの印象は？

（洗足出身生から見た他大学出身生の印象）

[戸﨑] 広い視点を持っていてより自由な印象がありました。過ごしてきた環境が違うので、考え方や知識が違うのは当然で、それがお互い良い刺激になったのではないかと思います。

戸﨑 可梨 Karin Tozaki
● 器楽専攻（打楽器）2年
洗足学園音楽大学卒業

中島 翔 Shou Nakajima
● 器楽専攻（和楽器／尺八）1年
東京藝術大学卒業

[増田] 柔軟で向上心が高いというイメージがあります。あと洗足生と比べて打たれ強くしっかりした人が多かったように思います。

[倉内] 出身大学によってカラーがかなり違い、授業ではとても刺激を受けました。そして、自分も刺激を与えられるよう頑張りました。

（他大学出身生から見た洗足出身生の印象）

[野邊地] 学部の頃から多くの本番をこなしているためか、本番慣れをしているように感じました。私の出身大学ではオーケストラでオペラをやるような機会はなく、教会で宗教曲を歌ったこともなかったので、そのような経験が学部の頃からできているのは、うらやましく感じました。

[森下] 洗足の学生はのびのびしている印象です。いい意味であまり周りを気にせず、自分のやりたいことをやっている感じがします。

[岩井] 自分に自信を持っている強い人が多い印象でした。ステージでの演奏の仕方も視覚的に魅せる演奏をする人が圧倒的に多くて最初は少し怖かったです（笑）。でも同時に見習いたいなと思いました。

[蔭山] 様々な専攻の人たちとも積極的に交流し、とても快活で仲が良い印象を受けました。また洗足の卒業生は、活躍の場がとても幅広いというイメージがあります。

大学院で学んで成長したと思える部分はどこですか？

[蔭山] 大学まで音楽を一生懸命学んできて、自分の限界を感じたこともありましたが、大学院で学んだことで、音楽の奥深さと自分の可能性に気付くことができました。

[岩井] 演奏に対して大学の頃はミスしないことを一番に心がけていましたが、大学院では自分のやりたい音楽が否定されない環境だったので、自分らしい演奏スタイルについて追究できた点だと思います。

[森下] 先生方が親身になって、自分の音楽の演奏や考え方を伸ばしてくれる環境なので、音楽をより楽しみながら学べたと思います。

[永嶋] 大学院は自ら動いて学ばなければならない環境だったので、チャンスがあったらすぐに行動に移そうと思うようになりました。そうした姿勢が、将来プロとしてやっていくために必要なことだと思います。

[倉内] もともと教員になろうと思い入学したのですが、ここで多くの仲間たちや先生と出会って、この人たちと一緒に作品を作っていきたいと考えるようになったことです。修了後も、様々な場所で、演奏会を行っていきたいと思っています。

最後にみなさんの将来の目標についてお聞かせください。

[永嶋] 音楽を通して、人を支えられるような人になりたいです。

[若林] オーケストラのプレイヤーとして活躍し、同時に演奏の技術を磨き、ソリストとしても活動したいです。

[岩井] 妥協をしてではなく、傲慢になるでもなく、自分の奏でる音楽が一番好き、と思えるようになることです。自分が納得する音楽を追求し、私しか表現できない音楽を持つ演奏家を目指します。

[森下] 大学院で様々な先生の指導を受け、専門的により深く研究したいテーマが見つかりました。これからも学びの姿勢を失わず、演奏や指導など、様々な音楽シーンに関わっていきたいです。

[戸﨑] 聴いてくださる人の心を動かせる打楽器奏者になりたいです。そして自分をとりまく環境を大切にしていきたいです。

[中島] 大学院で得た知識、技術を糧として、日本伝統音楽をもっと多くの人に知っていただき、また古き良き伝統音楽を尊重しつつ、今までにない新しい音楽を提供できるような演奏家になれればと思います。

[野邊地] 大学院で学んだことを糧に、修了後できれば海外でも勉強して、将来はオペラの舞台に立ちたいと考えています。

[倉内] 歌劇団などに所属し、多くのオペラに出演し、活躍したいと思います。

[蔭山] 音や音楽に関する探究は一生を通して行うものであると思います。音楽表現の形態も時代と共に進化しています。その為、自分の伝えたいことをより的確に表現できる選択をしていく必要があると思います。これからも素晴らしい音楽に出会い、様々な経験を重ねることで、絶えず新たな刺激を受けながら、劇伴音楽作品を創作していきたいと考えています。

[増田] 東京の主要ホールで、自作のオーケストラ作品を演奏してもらえるようになることが第一の目標です。将来は日本を代表する作曲家の一人になり、世界中で演奏されるような作品を書きたいです。■

野邊地 彩 Aya Nobechi
● 声楽専攻（声楽）1年
国立音楽大学卒業

倉内 健人 Kento Kurauchi
● 声楽専攻（声楽）2年
洗足学園音楽大学卒業

蔭山 翔 Shou Kageyama
● 作曲専攻（音楽・音響デザイン）2年
東京理科大学卒業

増田 悦朗 Etsurou Masuda
● 作曲専攻（作曲）2年
洗足学園音楽大学卒業